



第号 2012 年 月 日発行 日本共産党裾野支部

明るい裾野



小沢良一 tel 992-0875 fax993-8141 深良27-2

岡本和枝 tel/fax 992-5174 茶畑 854-3 E101

http://www16.plala.or.jp/ozawa_ryouiti

peace_love_cabird@yahoo.co.jp

困ったことがあったら小沢、岡本のなんでも相談へ

今号の記事⇒ ①震災がれき焼却灰 飛灰が裾野市の最終処分場へ。②「震災がれきとセシウム除染」についての考察。③「事業評価」の評価。④中国見聞記。

震災がれき焼却灰が裾野市 最終処分場へ 市独自のセ シウム対策を取り入れ実施



雨水の流れ込みにくい埋め立て済み覆土された高台に厚さ10センチゼオライトを敷きました。

裾野市は1月2日(金)、震災がれきの試験焼却と本格受け入れで生じていた焼却灰 飛灰 527トン)を、これまで保管していた大畑の市の美化センターから飛散と流出を防ぐ袋状の「フレコンバッグ」15個に詰め、須山の最終処分場に運び、埋め立てました。焼却灰の放射性セシウム濃度は、1グラム当たり83～120ベクレルで、埋め立て場所での放射線の空間線量は、搬入前が0.02～0.03マイクロシーベルト/時、搬入後が0.04マイクロシーベルト/時だったそうです。この差は、線量計による測定の変動の範囲内で、差があると言えないもの。現在の通常の空間線量と言えます。

心配されるセシウム汚染対策として、セシウム吸着能力が高いとされるゼオライト(厚さ10cm)を埋め立て場所に敷いた上で、フレコンバッグを並べてビニールシートで覆いました(写真)。

報道によると須山地区区長会の宮崎哲久会長(68)は「ゼオライトを敷くなどの対策が取られ、安全に埋め立てられていると実感した」と話しているそうです。市では、3週間に12トン



ゼオライトの上にフレコンバッグに詰めた焼却灰 飛灰を置きます。「埋め立て」というより「置いている」という感じです。

フレコンバッグに詰められ並べられた焼却灰 飛灰の上に雨水が入りにくいようにブルーシートをかけました。



のペースで、来年 3月末までに 84トンを受け入れる予定だそうです。

今後は周辺の公共施設などの空間線量率、放流水や地下水の放射能濃度を定期的に測定し公開するとしています 従来のデータも市のホームページで公開されています)。

震災がれきとセシウム除染 ①

岡本裕市

今号では、震災がれきと放射能 特にセシウム)問題について、8月時点での考察の到達点をまとめました。 次号では、その後の調査でわかった、昨年 3月の福島原発事故以降の、裾野市や他自治体のセシウムの降下量を、データから推定してみます。

震災がれきセシウム問題への提案

震災がれき受け入れは、非汚染地域への汚染物質持ち込みは間違いです。一方、汚染地域は、震災がれきの前に自らの汚染対策をどうするか考える必要があります。

裾野市では

富士山と箱根山そして愛鷹山に三方を囲まれた裾野市は、全域が汚染地域です。震災がれきが来なくても、通常のゴミを燃やせばセシウムは濃縮され、何も対策をせずに最終処分場に埋めれば地下水汚染の恐れがあります。

さてどうすればよいのか。市域全域の除染ができれば文句はないのですが、少なくとも裾野市の受け入れようとしている震災がれきとともに通常ゴミへの対策を裾野市に提案し話合ってきました。

- ①震災がれきへの途中混入を防ぐため、山田町で積み込み時にコンテナを封緘する。
- ②焼却炉 処分場のより一層の安心 安全の担保のためゼオライトによりセシウムを吸着させる。
- ③雨水の入らない遮断型最終処分場の設

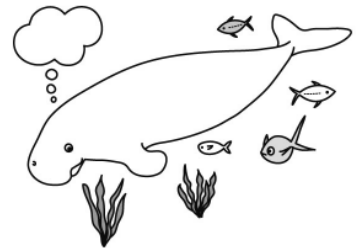
置、これは、国の尻拭き事業なので、当然国が安心 安全の担保として行うべき、というものです。

ゼオライトでセシウム吸着を

遮断型処分場は実現していませんが、裾野市は震災がれき焼却灰 飛灰をフレコンバッグに詰め、処分場高台にゼオライトを敷いた上に置き、覆土し雨水が入らないようにブルーシートをかけるとしています。この後、ゼオライトにセシウムが吸着し続けた結果高濃度になりその高濃度吸着のゼオライトは国 東電に引き取ってもらうことを提案しています(シーザーのものはシーザーに。東電福島のは東電福島に)。

一方で問題提議

裾野市だけではなく静岡県内は汚染地域と言えますので、震災がれきが来なくても県内



各自治体の通常ゴミ処理でも対処が必要ではと考えます。県内の自治体で通常ゴミ焼却灰を「非汚染」の他県自治体の処分場へ送っているところもありますが、他県自治体への汚染物質持ち出し反対」の声はありません。自分の所へ来る震災がれきは放射能汚染されているから反対だが、自分の所の放射能汚染焼却灰を他へ持ってゆくことにはなにも言わない？

ダイオキシン対策焼却炉でのセシウムの動向

さて、震災がれき問題についても一言述べたいと思います。震災がれき処理反対の主張にセシウムは燃焼で気化し拡散するという主張があります。確かに 670℃程度で気化してしまい、超微粒子の気体をバグフィルター (BP) は捕集はできません。一方、電気集塵機 (EP) は静電気吸着なので基本的には超微粒子でもあまり関係なく吸着できていると考えます。昔、ダイオ

キシン・ゴミ問題に関わったものとして、なんでも燃やすことには反対してきましたが、ダイオキシン対策での「怪我の功名」で、ダイオキシン対策をきちんと行い運転している焼却炉なら燃焼のすぐ後で、飛灰も焼却灰も水を散布して200℃程度に急冷しています。これは、煙道を通して冷えていく途中、350℃～250℃でダイオキシンが発生（ゼノボ生成）するのを防ぐためです。200℃程度以下に温度が下がればセシウムも気体から金属固体に戻り、バグフィルターでも捕集できるようになっているはずですが、もし焼却後に近辺のセシウム濃度が高くなったとすれば、バグフィルターの問題よりこの冷却に手抜きがあるのではと考えます。次号でこの点をさらに突っ込んで見てみます。

ゴミ収集処理システムはセシウム除染で使える焼却でセシウム濃度が何十倍になるので大変だ、とも言います。しかし、少し見方を変えてみましょう。ゴミ収集・処理システムの「想定外」ですが、毎日セシウムを集めて高濃縮しているということです。集めたものを飛散しないように、水が入らないようにして仮保管すればこれは除染の一種といえます。全国で、毎日行われているゴミの収集・処理。これはダイオキシン対策の「怪我の功名」で、セシウム除染システムとして使える、いや、使わなければもったいない、ということです。ただし、降り注いだセシウムの、ゴミで回収できる分だけですが。それでも、半減期を待つだけより前進的であると思います。

結論として

セシウムに限ってですが、今、私たちが毎日稼働しているシステムでセシウム除染対策として有効に利用できるゴミ収集・処理システムをきちんと評価すべきだと考えます。

あらためてまとめると、

- ①焼却場の正常・正確な運転。
- ②自治体最終処分場での「水」に接触さ

せない対策。セシウム吸着対策。

- ③国が責任を持って「中間処分場」として各県に遮断型処分場を作ること。
- ④そして、震災がれき焼却灰・飛灰の最終処分場は東電福島第一しかない、ということ。

次号では、裾野市、静岡県内の昨年からのセシウムの降下量と地下水・表面水でのセシウムの動向を見てみます。震災がれきとは比較にならない多量のセシウムが見えてくるでしょう。

市長や議員はなんのために存在しているのか。 事業評価や事業仕分けから考える。

記 小沢良一（議員）

昨年に続いて今年も市長が委嘱した方々による裾野市行政改革推進委員会（委員10名）が開催されて「事業評価」が行われた。今年は高齢者医療助成事業・裾野市独自事業で医療費負担を助成する

事業で75才以上の方に上限 円2千/年、80才以上は上限 円5千)含めて10事業



(4事務事業)が行われた。

その結果高齢者医療助成事業は廃止1件、その他の評価は、○実施方法の変更6件、○小幅な縮小4件、○大幅な縮小1件、○継続現行どうり1件、○継続充実拡大1件、の評価がされました。この結果は行政内で検討され事業予算に反映され議会に提案、議会が議決しますと実施に移ります。

事業評価について、行政改革推進委員会のみなさんは、事業評価を総括して、「事業仕分

第2回) 電動自転車

中国は「社会主義市場経済」の市場経済開放改革で急激な経済発展を遂げている国です。そのことにより国内において所得の格差、貧富の格差が拡大しています。日本と比較すると所得、経済、暮らしの各分野に亘って発展段階に有ります。日本と比較して「遅れている」と思われるところもありますが、日本の高度経済成長の過程を知る人ならば日本もこんな風だったなと記憶を呼び起こして「くれるのではないかと思います。ベンツ、ホルクス、ワーゲンなど外国車に混じって右側端車道（中国は右側通行）を電動自転車が走行しています。日本では「電動アシスト自転車」、「電動機（モーター）」により人力を補助する自転車で搭乗者がペダルをこがなければ走行しない自転車ですが、それとは違います。スクーター型をした自転車と呼ばれている電動モーター自転車が自走しています。自転車ですからペダルが付いていてそれがクルクル廻っているのが普通ですがそれは一部で、ペダルは取りはずされて見えないのが殆どです。それでも自転車です。自転車ですから中国でも免許は入りませんから手軽な乗り物として活用されていました。この分野では電動化が進んでいると関心しました。



中国の電動自転車

けの本来有るべき姿は、専門家や一般市民に委ねるべきものではなく行政自身（首長）が自己責任により行政経営の観点から事業改廃を判断すべきでありさらには市民の代表である議会が実施するべきとの考えによるところです、と述べています。私たち共産党議員団はこの基本的考えに賛成です、又その考えで議会議員活動をしています。

議員には予算編成権はなく市長のみ予算編成権（事務事業を作成する権限）があります。そのことに対して議員は事務事業を精査審査して賛否を表明します。

共産党議員団は、市長が提案する予算（案）では修正予算を出したり議案で市民の立場から問題があると判断するものは反対表明したりしています。

事務事業のあり方や予算の増減について市長（行政側）や議会議員の姿勢や考えを変えないと行政や議会は活発な活動ができないと考えます。例えば、市長は最大限これで良いと思つて予算（案）など議会に提案してきますが、議会議員はそれで良いのか審査します。これは問題があるので修正したい、予算額では増減をしたいとした時に、市長側は聞く耳を持って対応できるのか、議会議員は「市長の顔色を伺って言うて良いのか」どうか戸惑ったりしていないかです。市長側が自分たちの提案したものは絶対に修正の余地はない議員が何を言うが修正や問題点の指摘は認めないとする姿勢があると、市長のやることに口を出すのは、反市長派としてレッテルを貼られる事を恐れ、言いたいことは控えめに、予算修正したいが修正提案もしないことに繋がって行きかねません。

尼崎市長が「議会から問題点の指摘がある事件については意見を参考に再提案をします」の見解の話を聞いたことがあります、これこそ市長と議会の有るべき姿をしていると感じたところでは。